

山の百名花

遠足員 滝尾 早苗

【49】シナノキンバイ

曇り空の下、黒ずんだスプーンカットの雪渓を登っている。岩崎先生の新百名山登山教室白馬岳への大雪渓である。

小雪渓のトラバースは傾斜がある上に雪の状態はよくない。「慎重に、慎重に」と先生は声をかけている。

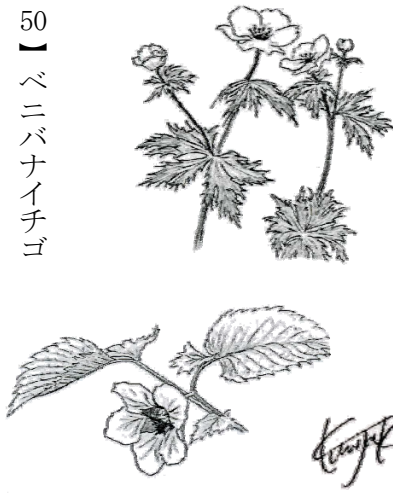
トラバースが終わると木の階段だ。傍らの雪の解けた斜面に、黄色のひとときわ色鮮やかな、直径3センチから6センチの大振りのしっかりとした花が目飛び込んできた。五弁の花びらが梅の花に似た黄色の花は濃い緑のハート形のぎざぎざと深く切れ込んだ葉をしっかりと従えて首をもたげ、大空に向かって開いている。気品あふれる姿に吸い寄せられる。

「一本立てます」と先生がおっしゃって休憩である。木道に腰を下ろしあたりを見わたすとさつきまで霧がかかっていた空はブルーに輝き、あたり一面のシナノキンバイに降り注いでいる。ピンクのハクサンフーロ、純白のハクサンイチゲそして濃い黄色

のシナノキンバイ見事なお花畑である。

歩きにくく苦しかった急峻な白馬大雪渓を登ってきたことなどすっかり吹き飛んでしまった。黄色は元気の出る幸せの色だ。

山で出会う花々は厳しい冬を越し雪がとけ日ごとに季節を追いながら一気に夏を迎える。そして、花を咲かせ虫を呼び実を結ぶ一生の充実を短い日数でやっつけのける。それだけに色鮮やかに凛と咲く。



【50】ベニバナイチゴ

ローズマダー(濃紅色)の花びらはうっむき加減にお猪口を伏せたように咲き5枚の花びらには細いひだを寄せている。黄緑色の鮮やかな葉、その陰に隠れるように咲いている。私の膝より少し高めの草丈の葉が歩を進めるたびに足に触れる。

葱平の上のお花畑には、シナノキンバイ

やクルマユリ、ハクサンフーロ、ハクサンイチゲと色とりどりの花が一面に咲き競っている。花たちは「ちよつと休もうよ」と私たちに手招きをする。

ベニバナイチゴは、一際鮮やかに紅色の花をけな気に咲かせる。まるで赤いピロイドの洋服を着た少女を思い浮かべせ、幼い頃の自分と出会ったような気持ちになった。葉は3枚の菱形をした羽状の複葉でそれぞれの葉のへりは二重のぎざぎざがある。その葉の影に花はいつも1個だけ、直径3センチくらいで枝の先に下向きに開く、花びらに寄せたしわは濃い影を作ってふくらみを持たせている。花びらは薄い質感だがその陰影はまるでピロイド織を思わせる。

イチゴ属だがトゲがない。実は赤くなり食べられるというが私はその季節に出会ったことがない。山の花にはピンクや紫など美しい色があるけれどベニバナイチゴのローズマダーの濃い紅色はほかにない。下を向いて咲くから神様が授けた、見つけた時に感動する色の花だ。

白馬岳山頂へ頑張って登ろうと勇気付けられるお花畑の紅い花である。